



【特集】

「JA岡山×清心・ブレンド米」
「高粱紅茶×清心」

— 地域連携・産学連携 共同商品 —

聖書の言葉

あなたがたに新しいおきてを与える。
互いに愛しあいなさい。
わたしがあなたがたを愛したように、
あなたがたも互いに愛し合いなさい。

ヨハネによる福音書13章34節

「新しいおきて」とは「わたしがあなたがたを愛したように」ということばの中にあります。旧約聖書には「自分自身を愛するよう」に隣人を愛しなさい(レビ記19章18節)とありますが、ここではお互いの愛のほかりは「キリストが愛したように」ということです。神の御子イエスキリストは神であることに固執せず人間となつてこの世に来てくださった。病人を癒し、重荷を背負った人を解放し、社会の隅に追いやられた人々をなぐさめ、出会う人々に希望と平和を与えられました。いじめや虐待にさらされている人々、差別を受けている外国籍の人々、孤独のうちに苦難に耐えている人々を前にして、私たちはキリストのいのちにあずかり、自身をふり返り、キリストが愛してくださったように日々を過ごしてゆきたいものです。

キリスト教文化研究所長 シスター 津田 葵

Mini Serialization

Seishin Archives

今に続く清心の歴史をご紹介します

『With Dedicated Hearts』
Sister Aimee Julie S.N.D.de N.

ノートルダム清心女子大学第2代学長であったシスター・エーミー・ジュリーは、1924年に来日したシスターの一人であり、『With Dedicated Hearts』(1963年、ナミュール・ノートルダム修道女会刊行)を執筆しました。この書籍は、シスター・エーミー・ジュリーが、手もとにあった文書を参照しつつ長い宣教生活の思い出を書き残した貴重な文献です。

本学創立20周年を迎えた際には、『With Dedicated Hearts』の内容である、シスター来日当時のこと、活動、発展のあらましを簡潔にまとめた『麦、地に落ちて』(1969年、大学刊行)を発行し、大学が今後よりよくその使命を達成することができることを期待し、修道女会創立者聖ジュリー・ピリアートの功績と大学創立に至るまでの経路を、多くの学生・教職員に伝えました。

ノートルダムの風景 一人になれる静かな場所

大学キャンパスには、一人で過ごせる静かな場所がたくさんあります。このコロナ禍において感染症予防のためラウンジの座席数は制限され、3密を回避するための一人席が増えました。大学の学修は、授業だけでなく事前の準備、事後の展開などが必要です。学内でも安心して課題に取り組めるように、日頃から一人で過ごせる静かな場所を提供しています。

SNS(Instagram)#一人になれる静かな場所 で発信中です。



学生広報スタッフとして活躍した学生たちが巣立ってゆきました。



Cover : 文学部 日本語日本文学科 藤井 直子(左)
文学部 英語英文学科 木村 晃子(中)
文学部 現代社会学科 山本 美有(右)

学生広報スタッフ「SPARKLE(スパークル)」に所属し、大学広報に尽力した。ブログ記事の執筆をはじめ、イベント取材、教員インタビュー、広報誌、メディアへの出演など多方面で本学学生の生き生きとした姿を伝え、周りを照らした。2018年10月に結成。2021年度卒業生で4期になる。現在(2022/3/14時点)メンバーは33名(卒業生除く)。卒業を迎えアカデミックドレスで撮影しました。卒業証書・学位記授与式の様子は208号にてお届けします。

ノートルダム清心女子大学 BULLETIN Vol.207
発行 ノートルダム清心女子大学 広報室
2022年3月15日
〒700-8516 岡山市北区伊福町2-16-9
TEL(086)252-3107 <https://www.ndsu.ac.jp/>

国際交流
国際オンライン授業
清心のクリスマス
ぴあ祭開催

「JA岡山×清心(ブレンド米)」と「高粱紅茶×清心」

ノートルダム清心女子大学は「地域連携」「学生の成長」「認知度の向上」を目的として、地域連携・産学連携事業を積極的に推進しています。その連携のなかで、共同で考案された商品があります。一つは、高粱紅茶、一つは、ブレンド米です。いずれも学生が主体となり、地域・企業の方と研究、試行を重ね完成しました。

上」を目的として、地域連携・産学連携事業を積極的に推進しています。ブレンド米です。いずれも学生が主体となり、地域・企業の方と研究、試行を重ね完成しました。



商品を考案した9名の学生

「未来の米食育プロジェクト」共同研究により考えたブレンド無洗米

2022年3月3日(木)14時からJA岡山本所(岡山市北区大供表町1-1)にて、本学人間生活学部食品栄養学科の学生(小山洋子准教授ゼミ生9名)がJA岡山と協力し、岡山米を使った新オリジナル精米商品「晴々ロマン(はればれまん)」の成果報告会を行い、商品を考案するまでの軌跡を発表しました。この商品は、3月4日(金)からJA岡山農産物直売所、株式会社天満屋岡山本店他に販売されています。

JA岡山による独自ブランドの米の商品化は、減退し続ける米消費に歯止めをかけ、未来へ続く地元産米消費拡大を目指し、2018年度から包括的連携協定を結んでいる本学と、2020年9月より「未来の米食育プロジェクト」として始動しました。

本プロジェクトの第1弾として、ブレンド精米の商品企画を行い、コンセプトやブレンド内容をはじめ、ネーミングやパッケージデザイン、レシピーの考案等を行いました。

成果報告会では、津田葵学長が教育研究に対する日頃の感謝を述べ、食品栄養学科学生が商品を企画・考案した過程等について報告しました。



成果報告会にて商品の説明をする学生



JA岡山と学生との打ち合わせ(2021年10月)

3月4日～6日まで天満屋岡山本店のてんちかFOOD GARDEN「おかやま地産地産の店」にて、販売促進イベントが行われました。



販売するブレンド米「晴々ロマン」



「晴々ロマン」ブレンド米の報告はブログへ

清心×高粱紅茶 協働プロジェクト

文学部現代社会学科(二階堂裕子教授ゼミ)および人間生活学部食品栄養学科(吉金優准教授ゼミ)の学生が、岡山県高梁市の特産である高粱紅茶を用いたブランド商品開発に取り組みました。地域の生産者と学生が協働しながら、茶葉の収穫・加工を行い、高粱紅茶を科学的に分析し、「清心×高粱紅茶」のコラボ商品の開発を目指しました。

2012年より生産者グループ「百姓のわざ伝承グループ」(高梁市松原町、代表:藤田泉氏)が中心となり、荒廃茶園を再生するプロジェクトが立ち上げられました。現代社会学科の学生は、このプロジェクトに当初から参画し美しい茶畑をよみがえらせることに微力ながら携わり、この活動をさらに発展させるべく、2019年から食品栄養学科も協働して学生を主体とした高粱紅茶の新たな商品開発プロジェクトが始動しました。



荒廃した茶畑の再生活動(岡山県高梁市)



清心ブランド商品の企画・開発ワークショップ

高粱紅茶とNDSUのものごたがり



茶園再生プロジェクト

本学現代社会学科では、「美しい茶畑」への再生プロジェクトに関わってきました。今年の茶摘みの様子です。



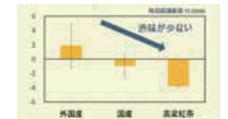
加工体験

私たちが摘んだ茶葉を紅茶に加工しました。実は緑茶と紅茶は同じ茶葉からできています。



食品科学特性の解明

色・味・香りなど多方面から高粱紅茶を分析しました。



研究で証明

食品栄養学科が参加して、渋味が少なく、飲みやすいことを証明しました。



開発された商品は、大学祭で販売され、オープンキャンパスで配られました。パッケージ商品には、これまでの清心と高粱紅茶のかかわりを、地域の多くの方々に知ってもらうため、荒廃茶園の再生から高粱紅茶の魅力までをわかりやすく描いたリーフレットを入れています。現在(2022年3月)、オープンキャンパスの来場者に、「高粱紅茶×清心」を配付しています。



高粱紅茶の報告はブログへ

国際交流

- SEISHIN AND THE WORLD -

この2年間新型コロナウイルス感染症の影響により、海外渡航が難しくなっています。本学では、海外へ行くことはできなくとも、オンラインで海外の授業を受けたり、模擬国連のように各国代表の「大使」となって英語で議論したり、様々な方法で国際的な体験を行うことができます。今年度は、ナミュール・ノートルダム修道女会のネットワークを使った授業を新たに開講しました。そのほか、岡山市内にて留学生と交流会を行うなど活発に交流の機会を増やしています。



国際オンライン授業 2021年度キリスト教科目新規開講「キリスト教VII」 テーマ「グローバル社会に生きる聖ジュリーの精神」



コーディネーター：キリスト教文化研究所
津田葵学長(右)、小林修典教授(左)



シスター津田の基調講演の様子

2021年度に新しく「キリスト教VII」が開講しました。世界で活躍しているアメリカのナミュール・ノートルダム修道女会のシスター5名を講師に招き、オンラインで実施しました。

この授業では、聖ジュリーの愛と奉仕の精神に思いをいたし、グローバル社会の課題の解決に私たち一人ひとりがどのように参加できるかを考えることを目的としています。聖ジュリーの精神を受け継いだシスターたちによる、世界各地での社会活動と教育活動について、遠隔授業を通して理解を深めました。そして、本学の設立母体であるナミュール・ノートルダム修道女会について知ることで、学生は視野を広げることができました。

授業の初回は、シスター津田葵学長による「グローバル社会に生きる聖ジュリーの精神」と題した基調講演が行われました。

海外のシスターがオンラインで授業を行なっている様子です。授業は3つのテーマに分かれており、最初のテーマは「聖ジュリーの精神とナミュール・ノートルダム修道女会の使命」。アメリカ合衆国のSr. Lorraine Connell(写真右)とSr. Judith Merkle(写真右)が講義を行いました。



Sr. Lorraine Connell(左)
Sr. Judith Merkle(右)



Sr. Marie Ann Prefontaine(左)
Sr. Jean Stoner(中)
Sr. Amarachi Grace Ezeonu(右)

続いてSr. Marie Ann Prefontaine, Sr. Jean Stoner(写真左、中)が「グローバル社会とキリスト教」、St. Amarachi Grace Ezeonu(写真右)が「ナミュール・ノートルダム修道女会の国際的使命」について講義を行いました。

1年生から4年生まで多くの学生が受講しました。質問したり、感想を送ったりして講師のシスターたちと交流もしました。最後のレポートを英語で書いた学生もあり、それを読んだシスターたちは、学生たちの問題意識の高さと理解の深さを高く評価し、この授業の意義を実感していました。



本学主催でOKAMUNを開催

2021年12月11日(土)・12日(日)の2日間、本学にてOKAMUN (Okayama Model United Nations) が開催されました。OKAMUNとは、岡山で開催される模擬国連 (Model United Nations)の大会です。模擬国連とは、学生が各国の代表者となり、実際の国連の会議のように世界規模の問題についてリサーチを行い、政策を考え、議論と交渉を行う国際会議のことです。

本学の全学共通科目「自立力育成ゼミV」を受講している学生をはじめ、岡山大学、神戸学院大学の学生も合わせた約40名の学生で行われました。昨年はオンラインでの開催でしたが、2年ぶりに対面による開催で、2回目の本学主催となりました。

参加した学生は自身の担当する国についての問題点を深く調べ、様々な議論を交わしていました。はじめのうちは不安だった学生も、会議が進むにつれ次第に自分の英語力に自信を持つようになり、各国代表の「大使」として堂々と意見を交わし、活発に充実した議論が繰り広げられていました。OKAMUNを通して本学の学生は多くの刺激を受けただけでなく、一人ひとりが英語によるディスカッションでの具体的な改善点を見つけることができました。

2022年6月には、本学にて約150人の学生を対象に開催されるJUEMUN (Japan University English Model United Nations)とよばれる日本大学英語模擬国連が開催される予定です。関西以外の大学がJUEMUNの主催校になるのは本学が初となることもあり、大会の成功に向けて奮励努力しています。



OKAMUN参加者による集合写真



岡山ビジネスカレッジの留学生との交流会

2021年7月9日(金)、日本語教員養成課程履修者の学生が、岡山ビジネスカレッジの留学生と交流会を行いました。本学からの4年生8名と、留学生12名が参加し、日本語日本文学の尾崎喜光教授・星野佳之准教授が同行しました。

日本語教員養成課程では、例年、台湾の協定大学(輔仁大学)で教育実習を行います。感染症拡大のため、2021年度も海外実習を取りやめざるをえませんでした。かわりに、近隣の岡山ビジネスカレッジで実習を受け入れていただくことができました。

交流会当日は、感染症対策に気を付けつつ、グループに分かれて日本語での交流をしました。時間を区切って好きな食べ物や趣味等を日本語で説明します。食べ物や趣味について自分と異なる文化圏の人々に伝えることは、想像以上に難しいものです。学生たちは

悩んだり考えたりしつつも、言葉を尽くして説明しました。学生にとって、相手の文化を通じて自らの日本文化を見つめ直す貴重な機会となりました。



留学生との交流の様子

ぴあ祭

2021年11月6日(土)午前中、澄み渡る秋空の下、NDSUピアサポーターによる学生交流会「ぴあ祭」(在学生限定)を開催しました。この催しは、コロナ禍で減少してしまった学生同士の交流を図ろうと、ピアサポーターが企画したものです。



はじまる前のミーティング。

みんな緊張な面持ち！



Let's Enjoy

クラブ見学では、ピアサポーターとして6つの団体が参加しました。どのクラブ・団体も日頃の練習の成果を観てもらおうと、一生懸命パフォーマンスを披露しました。



ぴあ祭がスタートすると、早速お目当ての企画に足を運ぶ学生の姿が見えました。ピアサポーターの学生たちは朝の緊張した表情から一変、優しさあふれる笑顔でお出迎え。自分たちの経験をとても熱心に伝えていました。スタンプラリーでは、学内施設をもっと知ってもらおうと企画したものです。教員の研究室ではクイズが出され、正解するとスタンプがもらえるという楽しいイベントもありました。



学生広報スタッフ SPARKLEの 木村さんと徳見さんが取材をしました。

留学をしたピアサポーターの体験談を聞きました。留学に興味のある学生が参加し、疑問や不安を解消していました。オンライン留学と現地留学とは、メリットとデメリットが入れ替わる特徴があるそうです。コロナ終息後も目的に合わせてオンライン留学と現地留学を使い分けるという方法もあるのではないかと感じました。

取材1
留学体験談

取材1

記者
木村 萌
(人間生活学科3年)



大学サイトでブログをご覧ください。

取材2

大学祭実行委員会紹介

記者
徳見 香菜子
(食品栄養学科2年)



コロナ禍のため大学祭を経験していない1・2生に向けて、大学祭での主な活動について実際に経験したピアサポーターが、説明しました。オープニングミサヤイベントなどの各パートの仕事内容について、真剣に話を聞く参加者の姿がとても印象的でした。

スポーツデー

2021年10月23日(土)記念館にて、スポーツデーが開催されました。スポーツデーは、各学科1年生がスポーツを通して友好を深め、一丸となって競技に取り組む毎年恒例の体育行事です。今年度は昨年度に続き、感染症対策として学部ごとに午前と午後に分け、希望者のみの参加としました。文学部37名、人間生活学部88名計156名の参加がありました。開会式からはじまり、競技はストレッチ、線鬼、ワンバウンドふらば〜るバレーボールの3種目を行いました。コロナ禍でも様々な工夫をした結果、例年以上に他学科の学生とも触れ合える行事となりました。



Wow!!

希望を届ける 清心のクリスマス

Notre Dame Seishin University Christmas

2021年度のクリスマス行事は、コロナ禍の続く中で失われかけている、人と集い、手を取りあうことの大切さを見つめ直そうと、これまでにない新たな試みを行いました。

行事の中心となったのは本学の貴重な文化遺産であるノートルダムホール本館の100ND教室。「キリスト教学Ⅲ」の履修生たちの手で、室内に設置したもみの木を飾り付け、ステージ上に馬小屋を飾りました。

12月1日の「アドヴェントの集い」、9日の「アドヴェントコンサート」、そして23日の「クリスマスミサ」では、感染症予防対策を行った上で、歴史ある大教室に集った学生・教職員が共に祈り、クリスマスを祝いました。

また、昨年に引き続きクリスマスサイトを通じて、「クリスマスコンサート」(動画配信のみ)を始め、クリスマスの準備の様子や行事の報告を、ブログや写真、動画によって公開しました。

さらに、今年は学生からの提案による募金活動も実施され、希望という贈り物を届けあう、クリスマスの意義を深く見つめる機会となりました。



ノートルダムホール本館のライトアップ

2021年度は、クリスマス行事の会場となる本館100NDをライトアップしました。100ND教室の明かりと、屋外から照らす暖色の明かりが、今も昔も、ここに集う人々が手をつなぐ場所—100ND教室を照らし、希望の光を届けました。

今こそ、手をつなごう

希望を届ける

清心のクリスマス

人と集うことの喜び。

心と心が結び合う、あたたかい時間。

コロナ禍を通じて、私たちはそんな日常の

素晴らしさに気づきました。

遠い昔、幼子イエスの誕生の喜びが、

人々の救いの希望となったように、

私たちも、こんな時だからこそ手を取りあって、

希望という贈り物を届けたい。

今こそ、手をつなごう。

清心のクリスマス。

アドヴェントの集い

12月1日(水)17時30分～

於：ノートルダムホール本館100ND



アドヴェントを
迎えて
学長メッセージ



2021年度のアドヴェント期間の最初の一催しとして、キリスト教文化研究所主催による「アドヴェントの集い」が開催されました。会場に飾られた馬小屋ともみの木に灯がともされ、カトリック岡山教会のアルベルト・ジャルト神父のお話、シスター津田葵学長のお話を聞いたのち、聖歌隊による合唱などが行われました。



アドヴェントコンサート

12月9日(木)16時30分～

於：同100ND

「キリスト教学Ⅲ」の履修生の企画するコンサートが開催されました。このコンサートは2年ぶりの対面での開催となりました。100ND教室の豊かな響きの中で、合唱やハンドベル、器楽など様々なかたちで、クリスマスにちなんだ曲などを演奏しました。

クリスマスミサ

12月23日(木)16時30分～

於：同100ND



アルベルト・ジャルト神父の司式により、「キリスト教学Ⅲ」の履修生を中心に、学生・教職員が集い、クリスマスを祝うミサが行われました。

ミサの最後には、新型コロナウイルスにより亡くなられた方々への追悼と、来る日も来る日も目に見えないウイルスと戦う医療従事者の方々へ向けた感謝、そして新型コロナウイルスの一刻も早い終息の願いをこめて、共に祈りを捧げました。

ミサ当日は、クリスマスを心待ちにしている子どもたちを支援しているNPO法人チャリティーサンタへのクリスマス募金も行いました。沢山の寄付をありがとうございました。

【報告】NPO法人チャリティーサンタのルドルフ基金へ13,278円を寄付しました。

クリスマス行事の詳細や、アドヴェントコンサート、クリスマスミサ、ファミリーコンサートの映像を、大学ホームページクリスマスサイトでご覧いただけます。



8月
August
Event

岡山市「学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト」に3事業採択



岡山市主催の「令和3年度学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト※1」の「学生ソログループ部門※2」に、本学から応募した3団体3事業がすべて採択されました。昨年は新型コロナウイルスの影響で実施中止となっており、1年ぶりの活動となります。

団体名	事業名
清心・奉還町TFTチーム	奉還町地域を拠点とする、TFT導入及び、関連施策の実施
ツボジョーワールド探検隊	坪田譲治が愛した川と水辺の生きもの世界の探検と発信 —SDGsの視点から豊かな自然環境を次世代へ—
「岡山どこ行く晴れマチnavi」 (略して、「晴れnavi」)	若者視点による岡山市の魅力発信とプロモーション活動の推進

※1「学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト」とは？…「学生が、企業や地域、NPO等と協働して、若者ならではの柔軟なアイデアの提案・実践によって地域課題を解決する活動や、大学で学んだスキルを活用して小規模ビジネスの実現に取り組む活動に対し、岡山市が補助金を交付して活動を支援する事業です。」(岡山市HPより)

※2「学生ソログループ部門」とは、各大学内でグループを作って取り組む事業の部門です。

※TFTとは、「TABLE FOR TWO」の略。

詳細はこちらをご覧ください。



「ももちゃり」の新しいマップを作成

2019年10月から、現代社会学科の学生が中心になって「ももちゃり」の新マップの作成に取り組みました。2021年9月にマップが完成し、現在では市内すべてのポータルに「ももちゃりMAP」が設置されています。この取り組みは、地域連携・SDGs推進センターによる岡山市とサイカ・パーキング株式会社と本学の産官学連携プロジェクトです。

※1岡山市コミュニティサイクルももちゃりとは岡山市内に複数設置されているサイクルポートで自転車を借りて、異なるサイクルポートへ返すことができるサービスです。

プロジェクト開始時には、在学生8名(当時1~3年生)が学科を超えて集まり、企画・取材・撮影・デザインに取り組みました。コロナ禍による中断もありましたが、オンラインシステムも用いて活動を続け、マップを完成させることができました。「ももちゃりMAP」では、若者の目線で選んだおしゃれな店や観光スポットを掲載し、まちの魅力を紹介しています。

自転車・公共交通中心のまちづくりは、SDGsの観点

からも重要なものです。本学では、地域連携・SDGs推進センターを中心に、今後も環境に配慮したまちづくりに寄与してまいります。



附属図書館「坪田譲治コレクション」フィールドワーク

2021年8月24日(火)に、本学附属図書館において「坪田譲治関係フィールドワーク」(附属図書館「坪田譲治コレクション」見学)が行われました。このフィールドワークは、岡山市が主催する「坪田譲治作品「子ども十二月」から探る明治・大正・昭和の岡山企画〜岡山県立岡山芳泉・岡山市立岡山後楽館高校両美術部によるデジタル絵画〜」の一環で、坪田譲治の文学作品からイメージする絵画作品を制作するに当たり、坪田譲治に関する事前学習・関連施設や作品に関する資料の見学として本学に来られたものです。

坪田譲治作品による絵画制作をする岡山県立岡山芳泉高等学校美術部の生徒13名が、教員1名と岡山市文化振興課職員2名とともに本学を訪れ、附属図書館にある「坪田譲治コレクション」を見学しました。

コレクションの案内役は、本学日本語日文学科2年生で岡山芳泉高校出身でもある内山萌さんが務めました。内山さんは本学の「ツボジョーワールド探検隊」のメンバーであり、坪田の生家の説明をはじめ、パノラマ写真の説明、初版本や自筆の色紙をわかりやすく説明しました。坪田にまつわるエピソードも交えながら楽しい説明で高校生とも会話がはずんでいました。

「ツボジョーワールド探検隊」(顧問:日本語日文学科の山根知子教授)の取り組みは、岡山市令和3年度「学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト」に採択され、今年度も、坪田譲治の魅力をもとに伝えるための精力的な活動が計画されています。



「おかやま秋の収穫祭地産地消マルシェ2021」に本学学生が参加。食品栄養学科学生が「桃太郎さんの地産地消どんぶり王選手権」にて優秀作受賞。

2021年11月6~14日の日程で、「おかやま秋の収穫祭地産地消マルシェ2021」が、市内の飲食店を舞台に行われました。地元生産者さん自慢の秋の農産物を使って創作した「地産地消メニュー」が参加飲食店のお店で食べられるイベントで、本学学生も協力しました。

人間生活学科と英語英文学科の学生が協力し、北区間屋町にあるパティスリースウェーサロンド様にご指導いただき、大福の新商品開発をしました。打ち合わせ、試作を重ね「ケーキ系」と「秋の味覚系」の4個セット、2種類の大福を「おかやま秋の収穫祭地産地消マルシェ2021」にて販売しました。



食品栄養学科が参加した、マルシェ開催の「桃太郎さんの地産地消どんぶり王選手権」では、本学食品栄養学科3年生の藤川玲菜さん、黒田知里さんの考案した「食物繊維が摂れる!岡山秋野菜どんぶり」が見事、優秀作に選ばれました。岡山の秋の食材を使ったオリジナルのどんぶりレシピの募集があり、全65品の応募の中から書類審査・試食審査を経て受賞したものです。



優秀作に選ばれたどんぶり 藤川さん(左) 黒田さん(右)

課外活動

大学院人間生活学研究科 食品栄養学専攻 石川真美子さん
おかやまバイオアクティブ研究会「学生奨励賞」受賞

2021年7月16日(金)にオンライン開催された第58回おかやまバイオアクティブ研究会「第24回学生プレゼンテーション」において、人間生活学研究科 食品栄養学専攻修士課程2年石川真美子さんの研究課題「キノリノ酸誘導型腎臓障害の発症メカニズムの解析」が「学生奨励賞」に選ばれました。

2021年8月30日(月)11時から本学ノートルダムホール会議室において贈呈式行われ、指導教員の食品栄養学小林立一教授が見守る中、石川さんに事務局の公益財団法人岡山県産業振興財団から賞状と記念品が手渡されました。



課外活動

人間生活学部人間生活学科 永見千代乃さん
第59回北九州オープンフィギュアスケート競技会シニア選手権女子クラス優勝

2021年8月5日(木)～8日(日)に開催された「第59回北九州オープンフィギュアスケート競技会～飯塚アイスパレス杯争奪大会」シニア選手権女子クラスで、人間生活学科1年永見千代乃さんが優勝しました。

永見さんはこれまで、「第94回日本学生氷上競技選手権大会 フィギュアスケート競技選手権大会」で8位入賞や、2022年1月に栃木県日光市にて開催された第77回国民体育大会冬季大会「いちご一会とちぎ国体」スケート競技会フィギュア成年女子に鳥取県代表として出場するなど活躍しています。

課外活動

文学部日本語日本文学科学生3名受賞
第37回 高円宮杯日本武道館書写書道大展開覧会

受賞：日本武道館賞 森本紗希さん(日本語日本文学科4年)
大会奨励賞 松尾藍佳さん(日本語日本文学科4年)
特選 原田みやびさん(日本語日本文学科3年)

2021年8月29日(日)に第37回 高円宮杯日本武道館書写書道大展開覧会が日本武道館にて開催され、毛筆の部において、日本語日本文学科で書道を学ぶ学生がそれぞれ受賞しました。

この展覧会は、1964(昭和39)年の開館以来、「武道を通して青少年の健全育成」という設立目的に沿って、文武両道の立場から、日本の伝統文化のひとつである書写・書道の普及奨励を図るため、1985年から開催されています。



高円宮杯



森本さん、松尾さんは
本学の書道卒業
制作展にも
出品しています。

課外活動

大学院人間生活学研究科 食品栄養学専攻 高橋万由花さん
日本アミノ酸学会第15回学術大会 優秀ポスター賞受賞

2021年10月24日(日)にオンライン開催された日本アミノ酸学会第15回学術大会において、人間生活学研究科 食品栄養学専攻修士課程1年高橋万由花さんが「優秀ポスター賞」を受賞しました。

2021年12月3日(月)に贈呈式が行われ、日本アミノ酸学会第15回学術大会実行委員長で指導教員の食品栄養学小林立一教授(写真右)から、高橋さんに賞状と記念品が手渡されました。

受賞演題名「肥満を伴う非アルコール性脂肪肝(NASH)ではキヌレニン代謝酵素遺伝子発現が抑制される」高橋万由花、石川真美子、小林立一(ノートルダム清心女子大学大学院・人間生活学研究科・栄養生化学研究室)



課外活動

人間生活学部児童学科 丹下佳音さん、大学院人間生活学研究科 人間発達学専攻 小谷仁美さん
第37回岡山市民の童話賞入選(一般の部)

人間生活学部児童学科1年 丹下佳音さんの作品「とくとく」(第1部)
大学院 人間生活学研究科 人間発達学専攻 小谷仁美さんの作品「ハードル」(第2部)
(小谷さんは第35回市民の童話賞(2019年)においても入選しています)

市民の童話賞は、1971(昭和46)年に岡山市教育委員会が創設した「童話コンクール」を発展させ、1984(昭和59)年、児童文学者・小説家の坪田譲治氏(岡山市出身)の業績を称える「坪田譲治文学賞」とともに、岡山市が主催する「岡山市文学賞」に位置づけて改称したものです。(岡山市サイトより)



課外活動

食品栄養学科 小山ゼミ生9名
JAおかやま米おにぎりコンテストで準グランプリ

JAグループ岡山主催の「おかやま米おにぎりコンテスト」(9月開催)に食品栄養学科小山ゼミ生9名(4年生)が10品考案し応募しました。そのうち「岡山がぎゅっと凝縮香ばし醤油の炊き込みおにぎり」(写真)が、毎日食べたいいつもの定番おにぎり部門で準グランプリを受賞しました。

今回のコンテストのテーマが、「岡山県産食材を使ったおにぎり」だったため、学生たちは地元の食材をできるだけ多く使ったレシピを考えました。

その他、「ゴロっと、なす入り!肉みそおにぎり」「黄ニラ餃子チャーハン」「岡山県産野菜をたっぷり使用したキンパ風おにぎり」「昔ながらの黄ニラ味噌おにぎり」の4品も入賞しました。



学外活動

福田雄講師 2021年度印度学宗教学会賞受賞

文学部現代社会学科 福田雄講師の著書『われわれが災禍を悼むときー慰霊祭・追悼式の社会学』が2021年度印度学宗教学会賞を受賞しました。

審査報告書では、「文化・社会・宗教的背景を超えた「苦難への対処」の比較を可能にするため、「災禍の儀礼の社会学」を構築しようとするその試みは野心的であり、実際に本書で多様な事例を縦横に結びつ行われる分析からは、個別の事例に対する興味深い解釈も生まれている。本研究の進展の先に見える宗教社会学に対する貢献への期待が、印度学宗教学会賞に値する」と受賞理由が述べられています。審査報告書は今年度発行の『論集』に全文掲載されます。



学外活動

山下美紀教授
令和3年度岡山県男女共同参画社会づくり表彰 岡山県知事表彰

文学部現代社会学科 山下美紀教授が、令和3年度岡山県男女共同参画社会づくり表彰において、岡山県知事表彰を受賞しました。2021年11月12日(金)に、岡山県庁にて表彰式が行われました。

この賞は、県下各地域において、男女共同参画社会づくりに積極的に取り組み、その功績が顕著であると認められ、今後もその活動が期待できる個人及び事業者を表彰しているものです。



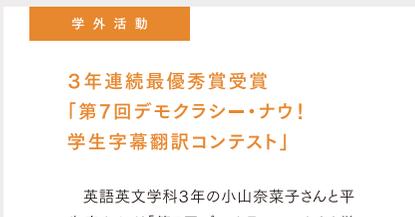


学外活動
林泰資教授
令和3年度栄養士養成功労表彰

人間生活学部食品栄養学科 林泰資教授が、2021年6月岡山県保健福祉部長から「栄養士養成功労」表彰を受けました。

これは、常に第一線にあって実際の栄養改善事業や栄養指導業務を担当し顕著な功績を有する栄養士や、管理栄養士・栄養士養成施設で特に顕著な功績を認められた教職員に授与される賞です。

林教授は本学科で2006年度～2008年度、2017年度に学科長を務めるなど、実践力のある管理栄養士の養成に尽力しています。



学外活動
3年連続最優秀賞受賞
「第7回デモクラシー・ナウ！
学生字幕翻訳コンテスト」

英語英文学科3年の小山奈菜子さんと平歩実さんが「第7回デモクラシー・ナウ！学生字幕翻訳コンテスト」の課題3(ギグエコノミー)において最優秀賞を受賞しました。2022年1月23日(日)には、オンラインにて受賞イベントが開催されました。

このコンテストは、国内外の大学生と大学院生が米国の独立放送局であるDemocracy Now!の英語によるニュースを日本語字幕に翻訳するもので、マスメディアでは報道されないような社会問題を深く掘り下げた内容を扱っています。英語自体の難しさもさることながら、背景知識を根気強く調べ上げることが要求されるハイレベルなコンテストです。3年連続で英語英文学科の学生が最優秀賞を受賞しています。



新型コロナウイルスワクチン
職域接種を実施

本学ヨゼフホールラウンジにおいて、2021年8月31日(火)～9月3日(金)に1回目、9月28日(火)～10月1日(金)に2回目の新型コロナウイルスワクチン職域接種を実施しました。

岡山済生会外来センター病院様のご協力のもと、本学学生、姉妹校・附属校の生徒・児童、教職員など約870名の接種を無事終えました。



2021年度外部評価委員会を開催

2021年8月31日(火)ノートルダムホール中央棟第一会議室において、2021年度外部評価委員会を開催しました。

本学では、自己点検・自己評価の妥当性と客観性を向上させていくため、外部評価委員会を設置しています。当委員会では、自己点検・自己評価の結果について、検証および評価、本学の教育研究等の向上に資する提言を行っています。



卒業生の活躍

人間生活学科卒業生
小山陽子さん
第68回日本伝統工芸展初入選

国内最大規模の工芸公募展「第68回日本伝統工芸展」の陶芸部門で、備前焼作家小山陽子さん(人間生活学部人間生活学科48期(2000年3月卒))の作品が、初入選に選ばれました。

小山陽子さんの入選作品「備前自然練込流水紋広口花器」は、2021年11月18日～12月12日まで岡山県立美術館で開催された「第68回日本伝統工芸展岡山展」に展示されました。



大学院文学研究科
オープンルームを開催

2021年12月1日(水)、大学院文学研究科(日本語日本文学専攻、英語英米文学専攻、社会文化学専攻)が、大学院についてもっと知ってもらおうという趣旨のもと、本学学部生限定:院生室開放企画「オープンルーム」を初めて開催しました。当日は、院生が院生室の案内をしたり、学部生からの質問などに答えたりしました。



2021年度 科学研究費助成事業(科学研究費補助金)決定一覧
(2021年4月1日)

研究種目	区分	部局名	学科	職名	研究代表者名	研究課題名
1	新学術領域研究(研究領域提案型)	文学部	現代社会学科	教授	紺谷 亮一	前期青銅器時代の集落構造からみたアナトリアの都市化
(2021年4月28日)						
2	特別研究員奨励費	新規	日本学術振興会	特別研究員	馬渡 玲欧	批判的都市理論に基づく「自然空間の生産」の理論・実証研究—産廃不法投棄問題から

2021年度 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)決定一覧
(2021年4月1日)

研究種目	区分	部局名	学科	職名	研究代表者名	研究課題名	
1	基盤研究(C)	新規	文学部	現代社会学科	准教授	轟木 広太郎	中世後期フランス・ネーデルラントにおける「魂の統治」と「聖なるものへのアクセス」
2	基盤研究(C)	新規	人間生活学部	児童学科	講師	藤掛 絢子	実習との往還を図った音楽表現領域における保育者養成教育プログラムと評価の開発

編集後記

2020年度に続き新型コロナウイルス感染症によって大学生活が左右される年となりました。2021年度は学内でもワクチン職域接種を実施し、できる限りの感染対策を講じながら、徐々に授業やイベントが対面で再開されるようになりました。207号の発行にあたりご協力くださいました卒業生、在学生、教職員の皆様に感謝いたします。(広報室)